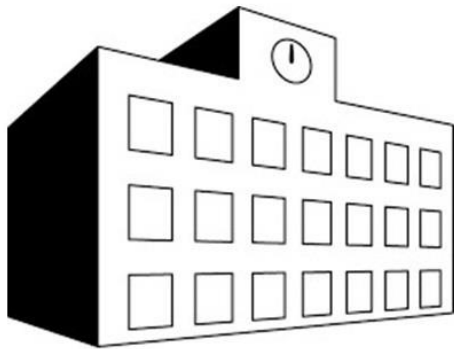


小中一貫教育のすゝめ



飯塚市立小中一貫校穂波東校

はじめに

本小冊子は、本校に新たに着任された先生方や、本校に視察等により来校された先生方に向け、本校の小中一貫教育の内容等を分かりやすくお伝えするために作成しました。

本小冊子は、本校が小中一貫教育をどのように捉えているかをまとめた「理論編」と、実際にどのような教育活動を展開しているかをまとめた「実践編」から構成されています。

それでは、まずは、本校の概要を以下にご説明いたします。

本校は平成29年度の楽市小学校と平恒小学校の統合による穂波東小学校の設立を経て、平成30年度に穂波東小学校と穂波東中学校による小中一貫校穂波東校として新たに開校しました。

本校の小中一貫校としての形態は、所謂、施設一体型小中一貫校であり、同一校舎内にある小学校と中学校が一体的に教育活動を行う学校です。本校では小・中学校のまとまりをそれぞれ小学部、中学部と呼んでいます。また、飯塚市の教育施策に基づき、1年生からの9年生までを前期（1年生から4年生）、中期（5年生から7年生）、後期（8年生から9年生）の3期に区分し、各期毎に目標を定める等し、小中共通の教育目標の達成に向け、小学部・中学部の協働体制による組織的・計画的な教育活動を展開しています。

本校では、小学部・中学部それぞれに学校長が配置されており、二人の学校長の共同経営による学校運営を行っています。二人の学校長については、どちらかの学校長が市教育委員会より代表校長として任命されています。また、円滑な共同経営の実現に向け、本校では1～2週間毎に小中合同経営部（構成は小中の学校長、教頭、主幹教諭）による運営会議を実施しています。この会議は合議による決裁を基本としていますが、最終的には代表校長が決裁を行います。

本校の校務分掌組織は、小中共通に教務部・研修部・生徒指導部・健康教育部・事務部の5部会で構成されており、これにより小中の協働体制の推進を図っています。また、研究組織としては、小中の全教職員から成る小中合同研部会が組織され、小中共通の教育課題の解決に向け、研究と実践に取り組んでいます。

以上が本校の概要説明となります。

それでは、次頁より本校の小中一貫教育の理論と実践について説明致します。特に実践編は、本校職員の小中一貫教育の教育実践を切り拓く熱意と努力なくしてはまとめることができませんでした。本校職員の並々ならぬ尽力に心より感謝しています。

最後になりますが、本小冊子が、小中一貫教育に取り組まれる先生方の一助になれば幸いに存じます。

令和元年11月

飯塚市立小中一貫校穂波東校
代表校長（中学部校長） 山本健志

理論編

この理論編では、「小中一貫教育とは」「小中一貫教育の良さ」「小中一貫教育の具体例とその要点」をできるだけ具体的に平易な表現にてまとめています。

また、本編では、施設一体型以外の施設分離型や義務教育学校型における小中一貫教育でも活用できるように汎用性のある表現を用いておりますことを申し添えます。

小中一貫教育のすゝめ 理論編

1 小中一貫教育とは

小中一貫教育は、同じ中学校区の小学校と中学校が、校区の子どもたちの学びや育ちについて、共通の課題意識や教育目標を共有し、連携・協働しながら一層確実にその課題解決や目標達成を図ることを目指した教育です。

同じ中学校区の教職員が、校区の子どもたちの学力・体力・豊かな心などについてその実態を互いに交流し合い、そこから明らかになる課題や設定された目標の解決・達成に向かって、組織的・計画的に取り組んでいきます。

2 小中一貫教育の良さ

小中一貫教育の良さは、その視点と手法にあります。

(1) 小中一貫教育の視点

小中一貫教育の視点とは、子どもたちの学びや育ちを連続的に捉える視点です。この視点で日々の教育活動を見つめ、改善を図ることで、義務教育9年間の中で学年が上がっても、子どもたちがギャップを感じることなく、これまでの学びを土台として、着実に育っていく教育の実現に迫ることができます。言い換えると、小中一貫教育の視点とは、学びの主体である子どもの側に立った、子どもたちの学びの過去・現在・未来を繋ぐための視点であると言えます。

(2) 小中一貫教育の手法

小中一貫教育の主な手法として、小中の教職員による連携・協働や、小中の児童生徒による異学年交流等があります。

小中の教職員による連携・協働を通して、義務教育終了時の目指す姿に向かって子どもたちを段階的に育てることができます。また、小中それぞれが持つ知識・経験・技術等が交わることで、教育内容に広がりや深まりが生まれます。

小中の児童生徒による異学年交流の中で、生徒は児童を教えたり、手助けしたりすることで、自らの成長を自覚し、自己有用感や自尊感情を高めます。児童は生徒からの指導や支援を受けることで、個々にその能力・資質が伸びるとともに、生徒の姿からモデル像を形成することができます。

この他にも、小中一貫教育の主な手法には、児童生徒の発達段階に合わせて、小中の教職員の専門性や特色等を活かして指導する出前授業・乗り入れ授業があります。

3 小中一貫教育の具体例とその要点

小中一貫教育の視点と手法により、特色ある多様な取組を展開することができます。その具体例と要点を教育活動づくり・学校運営づくり・教育環境づくりの3つの柱から述べていきます。

(1) 教育活動づくり

① 異学年交流

児童と生徒など学年の異なる子どもたちが相互に交流し、学び合う異学年交流は、これまでに様々な学校で、多様な交流が創造され、児童と生徒が互いに学び合い、高め合う活動が実施されています。

その形態は次のように分類することができます。

- 文化発表会や運動会などの学校行事を小中合同で行う異学年交流(小中合同行事)。
- 児童と生徒が掃除や給食などの日常的な活動を合同で行う異学年交流(縦割り掃除、交流給食、児童会・生徒会合同の挨拶運動等)
- 生徒が先生役となり児童に学習の支援等を行う異学年交流(生徒が先生役になる「算数〇付け先生」「折り鶴づくり先生」「英会話先生」「かけ算九九先生」など)

活動の実施に当たっては、活動内容に加え、児童と生徒の役割を小中間でしっかりと確認をしておくことが大切です。

② 乗り入れ授業・出前授業

小中の教職員はそれぞれに専門性や特色を有しており、そのことを活かして小の教職員が生徒に、中の教職員が児童に対して授業を行うことで、通常の授業にはない教育効果を得ることができます。このような教育活動を通年で行うものを乗り入れ授業、不定期に行うものを出前授業と呼んでいます。

乗り入れ授業では、特に始めて担当する授業者にとって、学習活動におけるグループ分けや評価の在り方、授業規律の在り方など、様々な事柄に対して疑問や不安が生じてきます。乗り入れ授業の授業者や該当クラスの担任などで構成する部会を定期的を開くことが大切です。

出前授業は、工夫次第でその有効性を更に高めることができます。例えば、小学校の運動会の練習期間に、中の体育科の教職員による「走り方やバトン・パス」の出前授業を行うこと等は、小学校側からのニーズも高く、その有効性が高まります。また、小の高学年が中学校側に出向く出前授業では、児童たちに中学校に進級して学ぶことをより強く実感させることができます。

(2) 学校運営づくり

① 小中共通の教育目標・重点課題の設定

小中共通の教育目標・重点課題を設定することは、小中の教職員による協働体制を構築する上で、絶対に必要なことです。

小中共通の教育目標は、児童生徒の実態を考慮する等、一般的な「学校の教育目標の設定における要点」を踏まえつつ、「義務教育修了時における目指す子ども像」を想定しながら設定します。

小中共通の教育目標は、「義務教育修了時における目指す子ども像」に基づき設定されることから、その内容・表現によっては、義務教育修了時を担う中の教職員と、そうでない小の教職員との間で目標達成に向けた熱意に温度差が生じることがあります。このようなことが無きよう、小1から中3までの9年間すべての教育活動が結びつくような内容・表現にすることが大切です。

次に小中共通の重点課題では、小中の教職員の協働体制により取り組むべき課題を設定することが大切です。具体的には、これまでの学校運営を振り返る中で明らかになった小中それぞれの課題の内、小中の教職員の協働体制による取り組み無しでは解決することが難しいと思われるものを「小中共通の重点課題」とします。このことで取り組む必然性を持った、言わば「生きた小中共通の重点課題」とすることが出来ます。

② 小中一貫教育の全体計画

小中共通の教育目標や重点課題に対して、小中の教職員が連携・協働しながらその課題解決や目標達成を図る上で、その全体計画はとても重要です。

小中一貫教育の全体計画では、小中共通の教育目標（義務教育9年間を通して目指す教育目標）に基づき、義務教育9年間の区分（小1から小4までを前期・小5から中1までを中期、中2から中3までを後期等）の教育目標を定めていきます。

次に、各区分（各期）における教育目標を定め、それらが段階的に小中共通の教育目標に迫るように設定します。

そして、各区分（各期）における教育目標を達成するための取組（教育活動）を定めていきます。

更には、これまでの教育活動の振り返りに基づき、各区分（各期）における重点課題を示していきます。

このようにつくられた全体計画により「PDCAサイクルによる小中一貫教育の推進」により迫ることが出来ます。

③ 小中一貫教育推進のための組織

中学校区における小中一貫教育を確実に進めていく上で、その中核となる組織（小中一貫教育推進委員会等）が必要となります。この組織の構成は、小中の校長、教頭、主幹教諭等が中心となります。校内に小中一貫教育コーディネーターが位置付けられていれば、その教職員も加わります。

小中一貫教育推進委員会（以下、委員会）の会議の頻度は、校区の課題や取組内容によって変わりますが、小中一貫教育の推進の土台は、小中間の日常的な情報交換であることを考えると月に一度くらいは実施することが望ましいと言えます。

そして、この委員会の会議では、本年度の校区の重点課題・年間スケジュール・異学年交流や合同行事の打合せ・学力テストの結果と分析等、小中一貫教育に係る様々な内容についての協議や交流等が行われます。

また、委員会とは別に、小中の教職員から成る小中合同部会（小中合同学力向上部会、小中合同生徒指導部会等）を構成し、取組を進めることは、小中共通の重点課題の解決を図る上でとても有効です。委員会のリードの下、組織的・計画的に小中合同部会の取組を進めることで、効率的に小中共通の重点課題の解決を図ることができます。

(3) 教育環境づくり

校内の掲示物を充実する等の教育環境づくりは、自校の教育活動の充実を図る上で有効な手段であり、小中一貫教育を進める上でも同じことが言えます。例えば、校内の掲示物等を通して、小中それぞれの情報を発信し合ったり、同じ情報を共有し合ったりすることで、小中の教職員及び児童生徒が互いに知り合い、更には学び合う関係を築くことに迫ることができます。その具体例は、小中共通の教育目標、児童会・生徒会の月目標、小中それぞれの学校通信、小中共通の生活のルール、中の部活動の大会結果等、創意工夫次第で実に様々な情報を発信することができます。

実践編

この実践編は、理論編の「小中一貫教育の具体例とその要点」に沿ってまとめています。その実践例の内容は、本校の教職員向けに発行している「穂波東校小中一貫教育だより」より抜粋した内容から作られています。

尚、「穂波東校小中一貫教育だより」につきましては、すべて本校HPに掲載しております。本校が開校して今日までの歩みや、小中一貫教育の具体的内容等が記載されておりますので、ご参照下さい。

小中一貫教育のすゝめ 実践編

1 教育活動づくり

(1) 異学年交流

① CLタイム（異学年交流学习）

「C-L Time」は「Co-Learning Time」の略で、「異学年による交流学习の時間」という意味です。具体的には、中学部の生徒が先生役となり小学部の児童に学習の支援等を行う異学年交流学习です。

(2) 穂波東校の「英語教育」

「未来志向・本物志向の教育」の一環として、穂波東校では「英語教育」の充実に向け、様々な取組が展開されています。

① 「Co-Learning Time」（異学年交流学习。略してCL Time）

中学部の生徒が先生役となり小学部の児童に学習の支援等を行う「CL Time」。

今回、8年生と3年生による「CL Time」を実施しました。

○単元：第3学年「好きなものを伝えよう」

○本時の主な英語表現：Do you like ○○? Yes, I do. / No, I don't.



先生役の中学生と本時の英語表現の練習をする児童たち

好きなものを聞き合う活動を行っている様子

楽しい雰囲気の中で児童と生徒が英語でのやりとりをしている姿を見ることができました。

穂波東校小中一貫教育だより 平成30年10月31日 第10号

② 平和学習の折り鶴づくり

本校は8月6日の平和学習において、1年生から9年生までの全学年で折り鶴づくりに取り組みます。この時、6年生から9年生の児童生徒が先生役となり、小学部の低・中学年の児童に折り鶴づくりの支援等を行います。

1 異学年交流：平和学習の折り鶴づくり

8月6日の平和学習では、田川人権センターの光武所長を講師としてお招きし、穂波東校全児童生徒を対象に戦争や平和についてご講演をいただきました。・・・講演後は折り鶴づくりを行いました。折り鶴づくりに支援が必要と思われる小学部の低・中学年には6年生から9年生の児童生徒が各教室に出向いて、先生役となり、折り鶴づくりの指導・支援を行いました。

異学年交流を通して上級生は下級生の手本となり、下級生は上級生を手本とし、上級生は自尊感情の向上を下級生はモデル形成等を実現しながら、互いに高め合うことができます。これからも穂波東校小学部・中学部で協力し、多様な異学年交流を創造していきましょう。



異学年交流は「1年生・6年生」「2年生・7年生」「3年生・8年生」「4年生・9年生」の組み合わせで行いました。異学年交流では、「取り扱う内容」によって適切に「学年の組み合わせ」を選定することが肝となります。今回は適切な組み合わせであったと感じました。

小学部児童に折り鶴づくりの指導・支援を行う中学部生徒たち

穂波東校小中一貫教育だより 平成30年8月7日 第7号

③ 小中合同表彰式・オブジェづくり・小中合同挨拶運動

○小中合同表彰式

本校では、始業式・終業式ともに小中合同で行います。この時、中学部の部活動の活躍報告も行います。各部活動の代表者が、大会で手にした優勝旗や賞状を持ってステージに立ち、全児童生徒に披露します。

○小学生と美術部員によるオブジェづくり

美術部が中心となり、希望する小学生を受け入れながら文化発表会等に向けた作品をつくっています。活動時間は昼休みです。小学生は、美術部員の手ほどきを受けながら、作品をつくります。

(例：平成30年度→金子みずぶさんの「大漁」をモチーフにしたオブジェづくり

令和元年度→ペットボトルキャップを使った「チコちゃん」のオブジェづくり)

○小中合同挨拶運動

定期的に小学部の児童会と中学部の生徒会による小中合同に朝の挨拶運動を行っています。

○ 穂波東校：異学年交流の創造

だより前号では、本年度、穂波東校の異学年交流として新たに創られた「異学年交流：平和学習の折り鶴づくり」を紹介し、生き生きとした児童生徒の姿をお伝えしました。

2学期に入り、先生方の創意工夫・ご努力により、また新たな異学年交流が創られていますので紹介します。

◎ 小中合同表彰式

穂波東校の部活動はこの夏の大会・コンクールにおいて大いに活躍し、たくさんの表彰を受けました。2学期の小中合同始業式では、表彰を受けた各部や部員たちが、夏の大会で手にした優勝旗や賞状を持ってステージに立ち、全児童生徒に披露しました。

中学部の部活動生には自尊感情の向上が、小学部の児童には「穂波東校の先輩たちはすごい。」「私もあんな先輩たちのようになりたい。」といった目標やモデル形成が図られたことと思います。



賞状や優勝旗、優勝カップを手にした先輩たちを見つめる小学部の児童たち

◎ 小学生と美術部員のコラボによるオブジェづくり

玄関ホールには、金子みすゞさんの

「大漁」をモチーフした、素晴らしい作品(オブジェ)が展示されています。

この作品は現在作成進行中です。美術部が中心となり、希望する小学生を受け入れ、ともに作品をつくっています。小学生は、美術部員の手ほどきを受けながら、魚(イワシ)の絵を作り、それを土台に貼っていきます。活動時間は昼休みです。毎日、何人もの小学生が活動に参加しています。筆者にとって、このようなスタイルの異学年交流は初めて見ます。施設一体型小中一貫校における異学年交流の先駆的な取り組みであると感じています。



美術部員の手ほどきを受けながら、魚の作品をつくる児童たち。すべての魚がやがて一つの大きな群れとなります。

◎ 児童会・生徒会合同朝の挨拶運動

9月4日～11日、児童会・生徒会合同朝の挨拶運動が取り組まれました。1学期にもプレ的に取り組まれました。この時は、児童会と生徒会は互いに少し離れた場所で行っていましたが、2学期からは、互いに混ざり合って、正に合同で取り組んでいました。取り組みが少しずつ進化している事例となりました。



児童・生徒がいっしょになったの挨拶運動

④ かけ算九九ボランティア

11月の一定期間の昼休みの時間を利用して、中学部のボランティアの生徒が先生役となり、小学部2年生の「かけ算九九の暗唱」を聞き、その評価や指導をします。2年生の児童が中学生の前で覚えた九九を暗唱し、それに対して生徒たちは、「よくできたね。」等と声をかけながら、「九九カード」に合格の印を書いています。

2 穂波東校：異学年交流の創造

穂波東校で、また新たな異学年交流が創られました。「かけ算九九：異学年交流」です。11月26日から12月14日までの昼休み、中学部のボランティア(現在18名)の生徒が先生役となり、小学部2年生の「かけ算九九の暗唱」を聞いてやり、その評価や指導をしています。いわば、「かけ算九九のC-L Time：昼休み・ボランティア版」といったものです。児童も生徒も生き生きとした表情で取り組んでいます。とても素晴らしい光景です。

先生方一度その様子を見に行かれて下さい。



中学生の前でかけ算九九を暗唱する児童たち。

穂波東校小中一貫教育だより 平成30年11月29日 第11号

(2) 乗り入れ授業・出前授業

中1ギャップの解消と、より専門的な学習を経験させること等をねらい、小学部の児童が中学部エリアの教室に出向いて授業を受ける「チャレンジ授業」を実施しています。

1 チャレンジ授業

2学期に入り、いよいよチャレンジ授業がスタートしました。

チャレンジ授業は、従来の“出前授業”の逆バージョン！ 児童が中学部の教室に出向いて受ける新バージョンです。小中一貫教育の取組としては、斬新なアイデアである言えます。

このチャレンジ授業では、児童が中学部の教室に実際に出向くことで、「やがて中学生なんだ！」という意識をより強く持たせることが期待できます。

また、穂波東校では、小学部の担任が事前指導を行っていることから、その効果は更に高まっています。

小学部で取り組まれた事前指導の内容（一例）

- 中学部の50分の授業でも、集中が途切れないように頑張ろう。
- 中学部の授業では、ノートを早く書けることも必要になってくるので、意識しよう。
- チャレンジ授業を通して、専門性の高い教科の学習を経験し、中学生になるための準備をしよう。

そして、チャレンジ授業を受けた児童からは、その良さを認める感想が出ています。

チャレンジ授業を受けた児童の感想（一例）

- 音楽の授業を松尾先生にしてもらって、歌のうたい方が変わって、歌がうたいやすくなりました。だから、元々苦手だった歌が好きになりました。
- 理科は実験だけでなく、実験に使う物の説明までしてくれて、分かりやすかったです。中学校に入っても忘れずに話をちゃんと聞いて、小学校より聞く態度を良くして学んでいきます。
- （チャレンジ授業を通して）中学校に入るのが楽しみになりました。

今後も色々な教科でチャレンジ授業を展開したいと思いますので、先生方のご協力をお願いします。



チャレンジ授業：音楽



チャレンジ授業：理科

穂波東校小中一貫教育だより 平成30年10月15日 第9号

2 学校運営づくり

(1) 小中共通の教育目標・重点課題の設定

穂波東校小学部と中学部は、共通の教育目標を「社会で生き抜く力の根っこを育てる」と設定しています。そして、この達成に向け「重点課題」や「前・中・後期の各期における目標や取組」を年度毎に定め、組織的・計画的に共通の教育目標達成に向け取り組みを展開しています。

2 新「穂波東校：9年間の教育活動プラン」

「穂波東校：9年間教育活動プラン（以下、9年間プラン）」を刷新します。

その概要は、次の通りです。

- ① 各期の目標
「前期・中期・後期」の各期において「知（学力向上）、徳（豊かな心・規範的行動）体（体力・耐性）」の目標を表します。
- ② 取組
各期の目標を達成するための具体的な取組を表します。

ここまでは、一般的な9年間プランと同じです。

（「知・徳・体」で整理した点、レイアウトなどにおいて、一部昨年度と変えています。）

③ 本年度の課題

各期における「知・徳・体」の課題を表します。

この③が新たに加わります。そして、③の中で「これは小学部・中学部が力を合わせて取り組まないと解決しないゾ。」と考えられる課題を本年度の小中合同研究部会の研究テーマとします。

以上は、「生きて働く9年間プラン」を目指しています。

現在、小中合同経営部会にて内容を練り上げております。第1回目の小中合同研修会にてその具体的内容をお伝えします。

先生方のお力で真に「生きて働く9年間プラン」になるよう、よろしくお願いします。

穂波東校小中一貫教育だより 平成31年4月18日 第1号

(2) 小中共通の全体計画

飯塚市内全10中学校区において、それぞれに「9年間の教育活動プラン」を策定し、小中一貫教育の教育実践を展開しています。この「9年間の教育活動プラン」とは、知・徳・体の3つの柱において、前期（小1～小4）、中期（小5～中1）、後期（中2～中3）の各期における目標との方策（取組）、重点課題を定めたものです。

1 「9年間プラン」の改善

本日より本年度の「穂波東校小中合同小中一貫教育研究会」をスタートします。

まずもって、この会の名称は長いので、通常は「小中合同研」と略したいと思います。

さて、本年度の小中合同研のテーマは、「生きて働く9年間プラン」（☞ お気づきの通り新学習指導要領のキーワードを引用しています！）です。

(1) 9年間プラン

「9年間プラン」は「9年間の教育活動プラン」の略であり、これは穎田校から始まった飯塚市オリジナルの小中一貫教育の取組の一つです。先生方にはご理解いただいているこの「9年間プラン」を改めて定義・説明すると次のようになります。

「9年間プラン」⇒各中学校区で定めた小中一貫教育の柱（例えば学力向上、豊かな心の育成など）において、前期・中期・後期ごとに教育目標とその達成に向けた教育活動をまとめた小中一貫教育の全体計画。

9年間プランのように、9年間を3区分し、「前期→中期→後期」へと「ホップ・ステップ・ジャンプ」と児童生徒の成長の姿（教育目標）と、そのための手立て（教育活動）をまとめた全体計画は、小中一貫教育を進めていく上でとても有効です。

飯塚市では、毎年度、各中学校区ごとに9年間プランを作成し、年度の初めにその内容を中学校区の全職員で確認し合います。そして、年度途中に「9年間プラン」に基づく実践交流等を行い、年度の終わりに総括を行います。そして、このような取組により一定の成果を積み上げてきました。

(2) 9年間プランの課題

筆者はこの9年間プランの持つ効果を認めつつ、一方で改善の余地を感じていました。穎田校で9年間プラン誕生に関わってきた筆者がこのように述べることは「いかがなものか!？」と思いますが、正直なところそのように感じていました。

9年間プランは、各中学校区で小中の教職員により組織的・計画的に児童生徒を9年間を通して育てていく上でとても有効ですし、筆者自身それを実感していました。もし、この9年間プランが無ければ、各中学校区の小中一貫教育は漠然としたものになったと思います。

しかし、一方、「この9年間プランにより中学校区が抱える課題が解決できた!」と実感したことは正直なところありませんでした。9年間プランの取組が、中学校区の課題解決につながるような、言わば、「生きて働く9年間プラン」になるためには、更なる改善の必要があると考えました。

(3) 生きて働く9年間プラン

課題解決につながる9年間プランにするためには、とても単純なことです、「9年間プランの中に課題を盛り込めばよい。」というのが結論です。そのイメージとしては、次の図を参照して下さい。

令和元年度 飯塚市立小中一貫校 穂波東校「9年間の教育活動プラン」

穂波東校学校教育目標 社会を生き抜く力の根っこを育てる

校種			小学部					中学部			
学年			1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
期			前期			中期			後期		
目 標	知	学力向上									
	徳	豊かな心									
	体	体力向上									
取 組	知	学力向上									
	徳	豊かな心									
	体	体力向上									
課 題	知	学力向上									
	徳	豊かな心									
	体	体力向上									

従来のもに課題が加わっただけで、見た目には、大きな変化は感じられないと思います。ちなみに課題をまとめる際は、このための会議を別途持つわけではなく、年度末に行う「教育指導計画書に沿った反省職員会」で確認された内容を基にまとめます。（このようなことも無理・無駄を無くす上で大切です。）

さて、これだけで「生きて働く9年間プラン」になるのでしょうか。いいえ、ここでもう一つ手を加える必要があります。それは、まとめられた課題の中で、小学部・中学部で力を

合わせ、正に総力戦で取り組まない限り解決しそうでない課題を太字にするなどして、明確に表すことが必要となります。（この太字などで表す課題を以下「小中重点課題」と表記します。）

「小中重点課題」は、本来であれば、小中の全職員で協議しながら定めるところですが、今回は初めての取組ということで、小中経営部会で協議し、次の通り設定しました。

令和元年度 穂波東校「小中重点課題」

- 1 活用力の育成（「全国学テの活用力を問う問題」において小中ともに全国平均以上）
- 2 不登校児童生徒の減少

2 「小中重点課題」の解決に向けて

9年間プランに表された「小中重点課題」の解決に向け、その取組の主体となるのが本日よりスタートする「小中合同研」です。

本年度は、前述の通り「小中重点課題」が二つなので、「小中合同研」を「学力向上部」「生徒指導部」の2部構成とし、それぞれが「小中重点課題」の解決に向け、方策を練り、実践し、その内容を評価するなどして、年間を通して取り組みます。

本日の「小中合同研」の中で、「学力向上部」「生徒指導部」のグループ分けについて説明を行い、その後に各部で課題解決に向けた方略について協議をしていただきますので、よろしくお願いいたします。

穂波東校小中一貫教育だより 令和元年6月98日 第3号

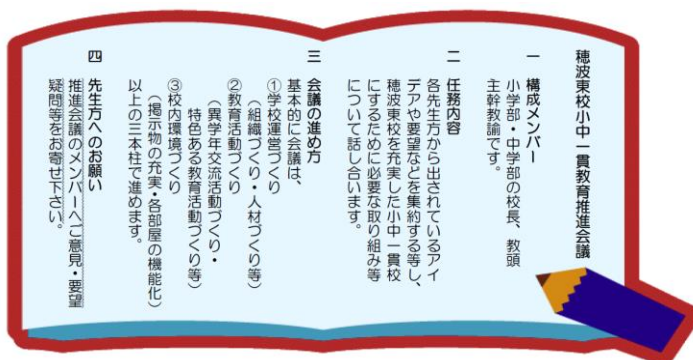
(3) 小中一貫教育推進のための組織

① 小中経営部会（小中一貫教育推進会議）

穂波東校における円滑な小中一貫教育の推進を目的とし、穂波東校経営部会による小中一貫教育推進会議を、1～2週間に一度の頻度で実施しています。部会の構成メンバーは小学部・中学部の校長、教頭、主幹教諭であり、議題によっては、各種主任等がこれに加わります。

1 第1回穂波東校小中一貫教育推進会議（4月27日）

穂波東校では、小中一貫教育推進会議が核となり、小中一貫校穂波東校づくりを進めていきます。



穂波東校小中一貫教育だより

平成30年5月2日 第2号

② 小中合同研

「9年間の教育活動プラン」に示された重点課題の解決に向け、小・中の全教職員から成る小中合同研究部会を構成し、課題解決に向け、組織的・計画的に取り組を進めています。

2 「小中重点課題」の解決に向けて

9年間プランに表された「小中重点課題」の解決に向け、その取組の主体となるのが本日よりスタートする「小中合同研」です。

本年度は、前述の通り「小中重点課題」が二つなので、「小中合同研」を「学力向上部」「生徒指導部」の2部構成とし、それぞれが「小中重点課題」の解決に向け、方策を練り、実践し、その内容を評価するなどして、年間を通して取り組みます。

本日の「小中合同研」の中で、「学力向上部」「生徒指導部」のグループ分けについて説明を行い、その後に各部で課題解決に向けた方略について協議をしていただきますので、よろしくをお願いします。

穂波東校小中一貫教育だより 令和元年6月19日 第3号

1 小中一貫教育を通して課題解決！

夏季休業中は小中合同研が主体となり、9年間プランに表された「小中重点課題」の解決に向けて熱心に協議していただきました。そして、各部会より、課題解決に向けた具体的方策が提案されました。以下にその主たる内容を示します。

学力向上部会Ⅰ

日々の授業の中で、活用力の育成を確かなものにするため、5つのポイントを意識した授業づくりに取り組みます。5つのポイントは「穂波東授業スタンダード（仮称）」とし、これを意識した授業づくりに学校全体で取り組みます。

生徒指導部会Ⅰ

不登校の未然防止・解消に向け、「穂波東校アクション3」を定め、全校で日常的に取り組みます。ステージ1は未然防止に向けた取組、ステージ2は早期発見・早期対応に向けた子どもの状況に応じた取組、ステージ3は組織的・継続的な取組が示されています。

学力向上部会Ⅱ

協調学習では、「エキスパート活動で、子どもが専門家になれるための手立ての工夫」「ジグソー活動で、子どもが思考を働かせることができるよう思考の発達段階を考慮した課題設定の工夫」の2点に重点をおいて取り組みます。

生徒指導部会Ⅱ

不登校の未然防止・解消に向け、不登校・不登校傾向の子どもたちの登校や学校生活の状況、家庭状況、関わり方や対応の仕方等の情報が、全体で共有できるように「穂波東校児童生徒カルテ（仮称）」を作り、それを電子データ化していきます。

各部会から提案された具体的方策をこの2学期から皆で取り組み、「活用力の向上」「不登校生の減少」を一步ずつ、着実に進めていきましょう！

波東校小中一貫教育だより 令和元年9月3日 第5号

③ 小中合同委員会

穂波東校の校務分掌組織は、小中ともに「教務部」「研修部」等の5つの部から構成され、各部に所属する係も基本的に同一にしています。このことで、小中間での多様な協働体制の推進を目指しています。その中でも、生徒指導係、人権・同和教育係等は、日常的に小中の協働体制で取組を進めています。

○ 穂波東校小中合同生徒指導委員会

6月6日（水）、穂波東校小学部・中学部の合同生徒指導委員会が開かれました。

小中の生徒指導担当の先生方の企画による委員会でしたが、実り多き会となりました。

参加者 小学部：校長先生、教頭先生、山下先生、真角先生
中学部：校長先生、教頭先生、仲上先生、菅原先生、宮崎先生
議題 ① グランドの使用について（小中の使用割）
② 児童生徒の移動導線について（プールへの移動時を中心に）
③ 各部からの生徒指導の報告

委員会の内容（議事録）は、中学部の仲上先生により「グループウェアの掲示版」にアップされていますので、ぜひご確認下さい。この小中合同生徒委員会は、月1回の実施予定です。

穂波東校小中一貫教育だより 平成30年6月11日 第5号

3 教育環境づくり

穂波東校では、小中の教職員及び児童生徒が互いに知り合い、更には学び合う関係を築くことをねらい、校内の掲示物等を通して、小中それぞれが情報を発信し合ったり、同じ情報を共有し合ったりすることに取り組んでいます。

② 日常的に英語に触れることができるような環境づくり

「英語に慣れ・親しみ、英語によるコミュニケーション能力を育てる」をねらい、穂波東校では「小学部のオンライン英会話」や「中学部のオールイングリッシュに迫る授業」等の英語の授業に加え、校内の色々な場所に英語に関する掲示物を整備し、日常的に英語に触れる環境づくりにも取り組んでいます。



穂波東校小中一貫教育だより 平成30年10月31日 第10号

【参考文献】

- 福岡県教育委員会、「福岡県小中一貫教育の手引き」、平成 31 年 3 月
※Web 上に掲載されています。
- 福岡県教育委員会、「活力ある学校運営の手引き」、平成 31 年 3 月
※Web 上に掲載されています。
- 国立教育政策研究所、「国研ライブラリー 小中一貫 事例編」、東洋館出版社、2016.6.20
- 文部科学省小中一貫教育制度研究会、「Q&A小中一貫教育～改定学校教育法に基づく取組のポイント～」、ぎょうせい、2016.10.20
- 天笠 茂【監修】、「公立小中で創る一貫教育—4・3・2のカリキュラムが拓く新しい学び」、ぎょうせい、2005.11.1
- 天笠 茂【監修】、「呉市の教育改革 小中一貫教育のマネジメント」、ぎょうせい、2011.1.20